

| | |
|----------|---|
| 授業科目 | 行政学演習 |
| 演習題目 | 公共政策とまちづくり・地方自治 |
| 担当教員 | 嶋田暁文 |
| 授業の目的 | <p>人口減少、少子高齢化、経済・財政縮小、財政縮小など、今、日本は大きな危機を迎えています。</p> <p>そうした中、地域をいかに持続可能なものにし、人々が生き生きと幸せに安心して暮らしていけるか、その条件をいかに確保していけるか、が問われています。</p> <p>現在、全国各地で、多様なまちづくりや行われたり、さまざまな政策が立案・実施されている所以です。</p> <p>このゼミの直接的な目的は、こうした各地のまちづくりや各種政策の内実を学ぶとともに、そこで残された課題やその解決策を考えることにあります。</p> <p>その作業を通じて、さまざまな「ものの見方」「論理的思考」「分析の仕方」などを身に付けていただくことが、このゼミの最終目的になります。</p> |
| 履修条件 | <p>①欠かさず出席するだけでなく、毎回テキストをしっかりと読みこみ、報告等の際にも決して手を抜かない「実直さ」</p> <p>②自治・まちづくりと政策をめぐる動きに関心を払い、その重要性を学びたいという「向上心」</p> <p>③ゼミ合宿や飲み会など、他者との日頃の付き合いを大事にする「人間性」</p> <p>④さまざまな「学ぶ機会」や「イベント」を、新たな出会いや成長をもたらすチャンスととらえ、可能な限り参加しようとする「積極性」</p> <p>⑤さまざまな指摘を受けても、へこたれず、前向きかつ柔軟に受け止められる「素直さ」</p> <p>⑥ゼミに参加する当然の前提として、行政学の講義を受講し、できるかぎり毎回出席するという「最低限の礼儀」</p> <p>これらを有していない方(たとえば、安易に飲み会を欠席するような方)は、固くお断りします。</p> <p>逆に、これらを有していれば、現段階での学識レベルは問いません。</p> <p>【重要】</p> <p>来年度は、新規のゼミ募集は行いません(3年次にゼミ登録していた者のみ応募可能)。ただし、本シラバスの内容(特に大学院演習との合同実施という点)を踏まえた上で、サブゼミとして応募いただくことは問題ありません。</p> |
| 教科書・参考書 | <p>輪読文献は、適宜示します。</p> <p>参考図書として、嶋田暁文『みんなが幸せになるための公務員の働き方』学芸出版社、2014年を挙げておきます</p> |
| 授業の計画・内容 | 今年度は、大学院演習と合同で、オンラインで授業を行います(18時15分～)。 |

| | |
|-----------------------|---|
| | <p>普段は、文献輪読を通じて思考能力・知識を獲得してもらいます。また、グループワークを行ってもらいます。グループごとに現地調査などをしてもらい、報告をいただきます。</p> <p>なお、最終的に4年次にゼミ論文（400字×30～50枚程度）を執筆してもらい、それを論文集としてまとめます。</p> <p>論文提出予定者には、12月末に一旦論文を提出してもらいます。私がそれに赤を入れて、年明けに返却しますので、年度末に修正した論文を再提出してもらいます。</p> <p>そのほか、①自治体との連携による現地調査・イベント参加（太宰府市五条地区の自主防災組織の行動計画づくりのお手伝いをきっかけに、日本三大火祭りの一つ、「鬼すべ」に、毎年、特別参加させてもらっています。今年度は、そのほかの地域でも、地元住民の方々と協力して、現地調査等をしたと思っています。）、②OB・OG会の開催（コロナ禍の時期を除いて毎年やっており、昼の部と夜の部で構成しています。</p> <p>理論と現実の双方を扱い、また、机上の学問にとどまらず現場をも大事にする、そして、（卒業後も含めて）人間としてのつながりを大事にするのが、このゼミの特徴です。</p> |
| <p>成績評価の方法</p> | <p>発表：50%（輪読するテキストについて、個人報告のほか、グループワークでの報告を評価します。）</p> <p>授業への貢献度：50%</p> <p>*無断欠席が続く場合は単位を認めません。</p> |